

2025年度ゼミ（演習1）要覧

担当者名	半澤 朝彦
演習テーマ	五感の国際関係論
演習の内容	<p>国際関係における文化（芸能・芸術・エンタメからイデオロギー、生活様式、規範まで広い意味の文化）、とくに言語化しにくい音、音楽、シンボル、絵画、写真、デザイン、ファッショニ、映画、ダンス、ミュージカル、建築、食、笑い、その他を幅広く扱う。半澤の現在の関心は聴覚表象（さまざまなジャンルの音楽、クラシック、ポピュラー、民族音楽、サウンドスケープなど）だが、ゼミ生はそれぞれ「マイテーマ」を持ち、共通の土台を持ちながらも、異なる問題意識から活発にディスカッションを行っている。</p> <p>文化の諸領域を扱うが、それは国際関係の研究であり、演習1ではナショナリズム、ソフトパワー、グローバル化、ジェンダー、規範、アイデンティティ他の大きな問題群を現代史の中でしっかり学ぶ。最終目標である大学生の集大成たる卒業論文（3年生、4年生で就活と有機的に平行してじっくり行う。）に向けて、自身のテーマを発見していく。地域や時代などの限定はない。言語化しにくい五感にかかる対象を扱うことで、感覚を適切に言葉に変換する力、思考力、コミュニケーション力などが磨かれる。</p> <p>本ゼミでは、上下の学年や卒業生と密接な関係がある。イベント、学外の研究会、コンサート、ライブ、展覧会、パフォーマンス、観劇、小旅行、演奏参加、合宿などがゼミの勉強の有機的な一部であり、他大学の学生、第一線で活躍する演奏家や、他大学の教授など分野を代表する研究者や文化政策担当者に親しく接する機会がある。社会性が求められるがアクティブで明るいゼミである。</p> <p>音楽や音をも含めて国際関係論として扱うゼミは、日本ではまだほとんどないフロンティアである。各自のテーマがいつも音楽である必要はないが、基本は全員で学ぶので、音に全く関心がない人は困る。扱う問い合わせ多岐にわたり、メンバーがチームとして共同して他の学生のテーマにも注意を払って学んでいくのでラクなゼミではないが、人間的・知的な成長を図り、自分を変える手ごたえのある勉強ができる。自主ゼミが活発で、就活、英語、留学、文章力といった課題にも対応している。演習3まで連続履修し、時間をかけて悔いのない卒業論文を仕上げる（演習1、演習2ではそれぞれ5000字程度のゼミ論を書く。）。</p> <p>ゼミ担当者の専門は広く、歴史学、政治学、国際関係論、国際関係史、グローバル史、イギリス帝国史、国連、文化（音楽）と国際政治、音楽社会史、ソフトパワーなど。楽器演奏（チェロ：英国ギルドホール音楽院=トリニティ音楽院ソロ・ディプロマ）「明治学院コンサートシリーズ」企画・演奏・レクチャー。</p>

テキスト・参考書	<p>半澤朝彦編著『政治と音楽』晃洋書房 2022</p> <p>森正人『大衆音楽史：ジャズ・ロックからヒップホップ』中公新書 2008</p> <p>岡田暁生『西洋音楽史』中公新書 2005</p> <p>大和田俊之『アメリカ音楽の新しい地図』筑摩書房 2021</p> <p>長谷川祐子『なぜ？から始める現代アート』NHK 新書 2011</p> <p>宮崎克己『ジャポニズム』講談社現代新書 2018</p> <p>渡辺裕『歌う国民』中公新書 2010</p> <p>西原稔『バロック音楽と国際政治』アルテス 2023</p> <p>辻田真佐憲『ふしげな君が代』幻冬舎新書 2015</p> <p>※上記はごく一部の例であり、自分で探して構わない。</p>
成績評価の基準	平常点、ゼミ論文
校外実習	実施しない（ただし、合宿や比較的近距離の国内外への実習や合宿は例年行っている、沖縄、北海道、ハルビン、軽井沢などが近年の行先例。負担額は数万円程度。）
校外実習を実施する場合、実習地・時期、個人負担額	上記参照。
選考方法	<p>次の書類提出と面接により選考する。①ゼミ志望理由(400字以内)および、②読書レポートまたはメディアレポート(1000字程度)を提出する。音楽あるいは他の文化領域の広い範囲から自分のテーマや問題意識を決め自分なりに論じてください。</p> <p>②が読書レポートの場合、上記「テキスト・参考書等」に挙げた本やその他の本を選び、一冊の一部または全部について論述する。自分の音楽体験（受動／能動）を政治や社会、国際関係と関わる形で考察しても良い。YouTube などで特定の動画を視聴してレポートしても可。</p> <p>なお、応募を考慮している学生は、説明会への出席は必須です。下記「説明会・オフィスアワー」の項に日時場所が書いてあります。説明会は必須ですが、オフィスアワー訪問は必須ではありません。</p>
小論文 (テーマ、書式・枚数、提出期限・方法)	5月26日（月）18時。期限間際の送信は避ける。 <u>マナバへの申し込み書</u> の提出とは別に、学番メールで半澤宛に送付する。その際、上記「選考方法」で指定した①と②を一つのワード文書にまとめ、自分の学番メールアドレスから、ファイル添付で送信。表紙は不要。メール本文には最低限必ず自分の名前と学籍番号を書き、ファイル名およびメールの件名は「ゼミ志望書類：自分の氏名」とする。学番メールは、面接日時などの調整ですぐに返信するので、選考期間中、必ず最低でも一日一回はチェックしてください。
メールアドレス	hanzawa@k.meijigakuin.ac.jp
説明会・ オフィスアワー	「ゼミ説明会」を、5月15日（木）12:35～13:25（8号館821教室）、および、5月19日（月）12:35～13:25（8号館821教室）で行う。応募を検討する学生は必ずどちらかに出席すること。この二

	<p>日のどちらも都合がつかない学生は、半澤まで個別にメールして代替の方法を相談してください。</p> <p>なお、ゼミ見学は5月15日（木）と22日（木）5限（この時間に他の授業がある人のために5限後の18:50頃まで見学可）に可能です。場所は8号館3階、演習室C（シー）。</p>
履修済・履修中であることが望ましい授業	国際関係論、文化交渉史、現代史、国際政治史、国際政治学、比較政治、比較文化、文化人類学、～文化論など幅広く可能な限り。
2026・2027年度に在外研究等で演習を開講しない可能性	なし
認定留学期間中（演習2・3開講学期中）の <u>遠隔指導*</u>	可
備考	

\* 「遠隔指導」については、「演習1」選考に関するガイダンス資料を確認のこと。